

KANUMA NO MEISHO

# 鹿沼の名匠

阿部 利雄

あべ

としお

◆襖製造

鹿沼市



## 阿部 利雄

表装の1級技能士の国家資格を有し、業歴46年という大ベテランの阿部さん。県内外から発注を受け、襖や障子の製造と修理を行っています。

襖の製造は、「襖骨材」を組むことから始まります。骨組みができたらのりを塗り、下地の紙を張ります(下張り)。一晩乾かしたら、鉋などで大きさを調整。次は半紙程度の大きさの紙を、重なり合うように貼っていきます(袋張り)。この重ねた紙が、骨組みとの緩衝剤の役目を果たします。再び乾かし、最後に表面の襖紙を張ります(上張り)。木枠や取っ手を付けて乾かし、完成です。

紙は、のりを塗った後に置く時間が長いほど柔らかくなり、乾くと

と縮みます。きれいに仕上がるのりの量や濃さは、紙質や天候に左右されるようで、コンディションに合わせた調整が必要です。

「若いうちはよく失敗しました。経験を積むことで体が覚え、良いあんばいで作業ができるようになるんですね。」

和室には、必要不可欠な襖。フローリングの普及に伴い、その需要は減りつつあります。注文も、製造より修理の依頼が増えているといいます。しかし、「時代の変化は仕方ないこと」と現状を冷静に受け止め、「今あるものを修理しながら、長く使ってもらおう。そのためにも丹精をこめて仕事をしたいですね。」と話す阿部さん。

丁寧に手間暇かけて作られる襖には、職人の真心が宿っています。